

ミュージアムサポーターの活動について



甲冑士養成講座

当館では、平成19年度にミュージアムサポーター(博物館ボランティア)制度を導入しました。これは、市民の方々から博物館で教育普及活動をお手伝いいただくとともに、能動的な学びの場として開始したものです。ミュージアムサポーターには、現在歴史体験教室「甲冑を着よう」で着付けと解説を行う「甲冑士」と、文化財マップを作成する「絵図士」の2種類があり、これまで多くの方々に活動いただいています。

着用して重さや感触を体感できる人気の教室です。現在、1年あたりの参加者は700人を超え、ミュージアムサポーター制度が導入されてから平成28年3月末までに、590回実施し、のべ6,837人の方が体験しています。人気を博している理由のひとつが、甲冑士が着付けをする際に、行方解説で1度の勉強会や自主的な学習などを通して、戦国時代における戦場の作法や甲冑の特徴を学び、その成果を元に分かりやすい解説を行っています。現在は21名の甲冑士が登録しており、平成22年度からは出張着用体験も行うようになりまし

近年では外国人旅行者の方の着用も増えており、今後ますます活躍の場が広がるかと予想されます。
「絵図士」は、博物館で配布して作成を行っています。寺社や路傍にある石造物や彫刻などの文化財を何度も現地調査をして調べ、解説をつけた分布地図。現在は18名の絵図士が活動しており、歴代の絵図士が作成したマップは、前身である「ふるさと講座受講生」が作成したものを合わせて60枚に上ります。市内だけではなく近隣の市町村を対象とし、ひとつの寺社を取

り上げたものから、江戸時代から明治にかけて活躍した彫刻家の作品を取り上げた「宮彫師・後藤義光」、市内の古木を特集した「気なる木」などテーマ別のものまで、その内容は多彩です。
この内容は多彩で、参加するミュージアムサポーターにとって楽しく学びながらその成果を活かす機会であるとともに、来館した市民や観光客の皆さんが歴史への興味関心を持つきっかけにもなっており、二重の意味で教育普及の場となっています。当館を支えるミュージアムサポーターの活動に、今後ますます注目してください。



絵図士の調査風景(大山不動尊)

平成27年度 展示事業紹介

終戦70年企画 収蔵資料展

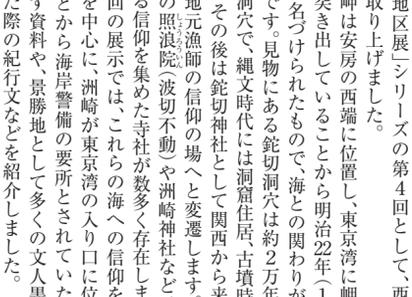
戦時のたてやま

7月11日(土)~9月6日(日)

【関連事業】解説会:7月25日(土)、8月22日(土)

平成27年は終戦から70年という節目にあたることから、各地で関連する催しが行われました。当館でも戦時のようすを紹介する収蔵資料展を開催しました。
本会場は、東京湾要塞地帯に指定され、昭和5年(1930)創設の館山海軍航空隊、昭和16年(1941)創設の館山海軍砲術学校など多くの軍事施設を抱えていました。展覧会では、これらの資料を通して地域の特色を紹介するとともに、戦時中の暮らしや学びに関わる資料を多く取り上げ、戦争が地域の人々に与えた影響について振り返る機会としました。

さらに、昭和2年(1927)にアメリカから親善のため日本の小学校に贈られた「青い目の人形」のうち、個人蔵・南房総市立富浦小学校・鴨川市立東条小立校・君津市立立松小学校の5体をお借りして特別公開しました。



戦時教育について紹介したコーナー

後藤義光生誕200年記念企画展

房州彫物職人の技

4月18日(土)~5月24日(日)

【関連事業】ギャラリートーク「後藤義光とその作品」4月25日(土) 稲垣祥三氏(寺社彫刻研究会・彫刻家)

房州で生まれた寺社装飾の彫工、初代後藤義光の生誕200年を記念して、渚の博物館を会場にその作品を紹介しました。
「後藤利兵衛橋義光」は安房の代表的な彫物大工として活躍しました。文化12年(1815)に千倉で生まれ、江戸で彫物大工としての修行を積むと、三浦半島周辺へ戻り多くの作品を残しました。80歳初めに現在の館山市上真倉青柳に移り住んでいます。義光の木目をいかした彫刻技術は美しく、また迫力のある作品をつくりました。館山市内では鶴

谷八幡宮の拝殿向拝の格天井の龍をはじめ、山車や神輿の彫刻でも知られ親しまれています。
今回の企画展では、館山市内に残された彫刻をご紹介します。上真倉や青柳の神輿2基は圧巻で、横浜からお借りした獅子頭とともに注目を集めました。



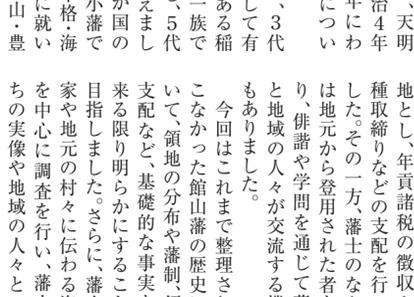
55点の作品が並んだ会場

新地区展 西岬 海の信仰が息づく地

10月10日(土)~11月29日(日)

【関連事業】解説会 10月24日(土)、11月21日(土) 歴史探訪 一伊戸・坂足・小沼・坂井 11月1日(日)

市内10地区の歴史と文化財を紹介していく「新地区展」シリーズの第4回として、西岬地区を取り上げました。
西岬は安房の西端に位置し、東京湾に岬のよう突き出していることから明治22年(1889)に名づけられたもので、海との関わりが深い地域です。縄文時代には洞窟住居、古墳時代には墓その後は鉾切神社として関西から来た漁民や地元漁師の信仰の場へと変遷します。また坂足の照渡院(波切不動)や洲崎神社など、海に関わる信仰を集めた寺社が数多く存在します。
今回の展示では、これらの海の信仰を示す資料を中心に、洲崎が東京湾の入り口に位置することを示す資料や、景勝地として多くの文人墨客が訪れた際の紀行文などを紹介しました。



海の信仰について展示したコーナー

特別展 館山藩

稲葉家と藩士たち

2月6日(土)~3月21日(月・祝)

【関連事業】解説会:2月13日(土)、3月13日(日) 講演会「江戸時代の藩社会と地域社会」馬場弘臣氏(東海大学教授) 3月12日(土)

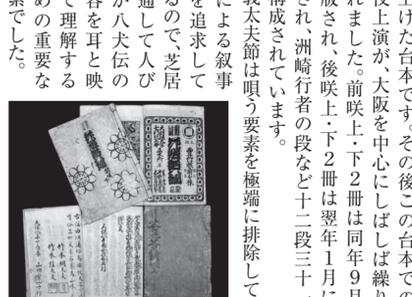


藩士の書画などゆかりの品々を展示

今年度の特別展では、天明元年(1781)から明治4年(1871)までの90年間にわたって存在した館山藩について取り上げました。
藩主である稲葉家は、3代將軍徳川家光の乳母として有名な春日局とその夫である稲葉正成の子孫に代わる一族で正明を初代藩主とし、5代正善のときに明治を迎えました。安房・上総・下総3か国の領地を合せて1万石の小藩でしたが、4代正巳は老中格海軍総裁など幕府の要職に就いています。市内では館山・豊房・神戸地区などの一部を領地とし、年貢諸税の徴収や各種取締りなどの支配を行っていました。その一方、藩士のなかには地元から登用された者もおり、俳諧や学問を通じた藩士と地域の人々が交流する機会もありました。
今回はこれまで整理されてこなかった館山藩の歴史について、領地の分布や藩制、領地支配など、基礎的な事実を出る限り明らかにすることを目指しました。さらに、藩士の家や地元の村々に伝わる資料を中心に調査を行い、藩士たちの実像や地域の人々との関わりを紹介しました。

「語って聴かせる」

歌舞伎音楽のひとつとして浄瑠璃が演じられます。語り音楽といわれ登場人物の心情の機微や感情の動きを表現し、そのセリフや仕草に合わせた音遣いや節回しで状況を語るものです。代表的な浄瑠璃には「義太夫節」「常磐津節」「清元節」などがありますが、写真は「南総里見八犬伝」を劇化した義太夫節の台本です。
「南総里見八犬伝」花魁吾八(総)のタイトルがつき、全4冊。山田宗子という大坂の浄瑠璃作者が、天保7年(1836)7月に大坂稲荷境内



『花魁吾八総』前巻上下・後巻上下

資料紹介 そうだ、房州へ行こう

現在も観光地として知られる安房ですが、江戸時代からすでに多くの文人墨客が訪れていました。
今回ご紹介するのは、奥州白河出身の漢詩人である宮沢竹堂が安房の風土を詠んだ漢詩集です。天保年間から十数年安房に滞在していた竹堂は、房州を漫遊しながら日記し、その詩をまとめて嘉永元年(1848)に

芝居で上演された同名の人物浄瑠璃用に仕上げた台本です。その後この台本での歌舞伎上演が、大阪を中心にはばばり返されました。前巻上下2冊は同年9月に出版され、後巻上下2冊は翌年1月に出版され、洲崎行旅の段など十二段三十一場で構成されています。
義太夫節は唄う要素を極端に排除して、語りによる叙事性を追求しているため、芝居を通して、芝居とが八犬伝のイメージを耳と映像で理解するための重要な要素でした。

この館報は再生紙を使用しています。御協力に感謝します。 No.90 16.3.15

御協力に感謝します

Table with 2 columns: 寄贈資料名 (Donated Item Name) and 寄贈者(敬称略) (Donor Name). Lists various items like books, maps, and artifacts donated by individuals and organizations.

博物館の活動 日誌ダイジェスト 平成27年4月~28年3月

- 18日 平成27年4月 〔渚の博物館〕安房学講座開催 3月5日まで全8回参加者のべ505人
19日 〔渚の博物館〕後藤義光生誕200年記念企画展「房州彫物職人の技」開催(5月24日)観覧者9,273名
20日 〔本館〕体験教室「甲冑を着よう」開催(以下、日曜祝日に実施)体験者766名(3月31日)
21日 ギャラリートーク「後藤義光とその作品」稲垣祥三氏(寺社彫刻研究会・彫刻家)参加者109名
22日 〔本館〕歴史教室「江戸時代の藩社会と地域社会」馬場弘臣氏(東海大学教授)参加者94名
23日 〔本館〕特別展「館山藩 稲葉家と藩士たち」(3月21日)観覧者7,793名
24日 〔本館〕第1回特別展解説会、参加者26名
25日 〔本館〕第2回収蔵資料展解説会、参加者19名
26日 〔本館〕第2回収蔵資料展解説会、参加者26名
27日 〔本館〕特別展「戦時のたてやま」開催(9月6日)観覧者9,582名
28日 〔本館〕歴史教室「活弁八犬伝」第2回開催、参加者16名
29日 〔本館〕第1回収蔵資料展解説会、参加者30名
30日 〔本館〕紙芝居「生きていた青い目の人形」上演、松苗禮子氏(8月29日)観覧者7,308名
31日 〔本館〕第1回新地区展解説会、参加者24名
1日 〔本館〕歴史教室「わたしの町の歴史探訪」伊戸・坂足・小沼・坂井参加者49名
2日 〔本館〕第2回新地区展解説会、参加者32名
3日 〔本館〕第2回収蔵資料展解説会、参加者19名
4日 〔本館〕第2回収蔵資料展解説会、参加者26名
5日 〔本館〕特別展「戦時のたてやま」開催(9月6日)観覧者9,582名
6日 〔本館〕歴史教室「活弁八犬伝」第2回開催、参加者16名
7日 〔本館〕第1回収蔵資料展解説会、参加者30名
8日 〔本館〕紙芝居「生きていた青い目の人形」上演、松苗禮子氏(8月29日)観覧者7,308名
9日 〔本館〕第1回新地区展解説会、参加者24名
10日 〔本館〕新地区展「西岬 海の信仰が息づく地」開催(11月29日)観覧者7,308名
11日 〔本館〕歴史教室「わたしの町の歴史探訪」伊戸・坂足・小沼・坂井参加者49名
12日 〔本館〕第2回新地区展解説会、参加者32名
13日 〔本館〕特別展「戦時のたてやま」開催(9月6日)観覧者9,582名
14日 〔本館〕歴史教室「活弁八犬伝」第2回開催、参加者16名
15日 〔本館〕第1回収蔵資料展解説会、参加者30名
16日 〔本館〕紙芝居「生きていた青い目の人形」上演、松苗禮子氏(8月29日)観覧者7,308名
17日 〔本館〕第1回新地区展解説会、参加者24名
18日 〔本館〕歴史教室「わたしの町の歴史探訪」伊戸・坂足・小沼・坂井参加者49名
19日 〔本館〕第2回新地区展解説会、参加者32名
20日 〔本館〕特別展「戦時のたてやま」開催(9月6日)観覧者9,582名
21日 〔本館〕歴史教室「活弁八犬伝」第2回開催、参加者16名
22日 〔本館〕第1回収蔵資料展解説会、参加者30名
23日 〔本館〕紙芝居「生きていた青い目の人形」上演、松苗禮子氏(8月29日)観覧者7,308名
24日 〔本館〕第1回新地区展解説会、参加者24名
25日 〔本館〕歴史教室「わたしの町の歴史探訪」伊戸・坂足・小沼・坂井参加者49名
26日 〔本館〕第2回新地区展解説会、参加者32名
27日 〔本館〕特別展「戦時のたてやま」開催(9月6日)観覧者9,582名
28日 〔本館〕歴史教室「活弁八犬伝」第2回開催、参加者16名
29日 〔本館〕第1回収蔵資料展解説会、参加者30名
30日 〔本館〕紙芝居「生きていた青い目の人形」上演、松苗禮子氏(8月29日)観覧者7,308名
31日 〔本館〕第1回新地区展解説会、参加者24名